



文部科学省 平成19年度～新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム～

学生支援GP実施報告書2009

総合的人間関係力を涵養する学生支援

—大学と地域で作るプレ社会における実践的トレーニング—



もくじ

ご挨拶	1
学生スタッフ制度	2
YPUドリームアドベンチャープロジェクト2009	4
県立大学フェスタ2009	6
自治会・サークル活動支援、インターンシップ制度	7
さまざまな学生活動の支援	8
AED講習会	
護身術体験型セミナー	
ピアサポート活動	
留学生支援	
ボランティア窓口の新設	10
ボランティア講習会	
地域からの各種要請の受託と地域への学生派遣事業	11
地域災害ボランティア	
小学生対象 なつやすみの宿題ボランティア	
山口県立大学GP合同フォーラム開催	12
広報活動	13

ご挨拶

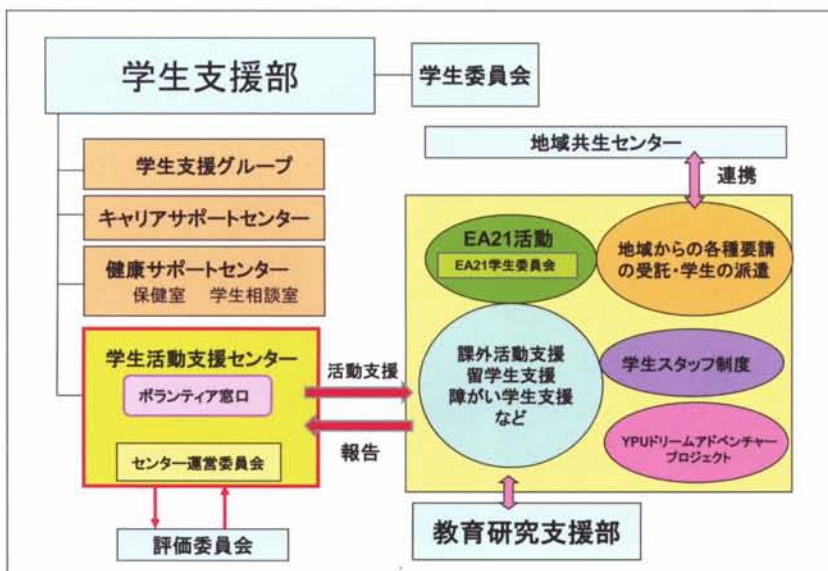
学生活動支援センター所長 人見 英里

山口県立大学は、平成19年度、文部科学省の支援事業である「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP）」に「総合的人間関係力を涵養する学生支援—大学と地域で作るプレ社会における実践的トレーニング」というテーマで採択されました。このプログラムは、昨今の大学生の「人と関わる力」の低下を、学生個々の能力の低下ではなく生活経験や社会体験の不足から来るものと考え、学生支援の観点からその経験を補っていくことを目的としています。

このプログラムを遂行するため、平成20年度から学生支援部の中に新たに「学生活動支援センター」を設置しています。さらに21年度は、ボランティア窓口を新設し、専任コーディネーター1名を配置しました。現在、学生活動支援センターはセンター所長ほか専任職員4名の計5名で構成されており、上述の目的を達成するため日々奮闘しているところです。

21年度の取組みとして特筆すべきものがボランティア活動の活性化です。山口県は7月21日、豪雨災害に見舞われ、甚大な被害を受けました。本学の立地する宮野地区においても水道ポンプ場冠水のため長期にわたり断水となりました。断水初日の夕刻から、学生約30名が宮野地区の給水所2ヶ所で、給水・運搬等の補助、交通案内等を開始しました。活動の輪は瞬く間に広がり、約100名の学生がボランティアとして登録し、全戸の水道復旧が完了するまでの6日間、授業の合間を縫いながら活動しました。その後、山口市や防府市では災害ボランティアセンターの運営、災害現場での復旧活動や義援金募金活動を行いました。このような活動を基盤として、ボランティア活動はその後もさまざまな領域で展開されています。

学生活動支援センターでは、今後も学生たちが生きるために必要な力をつけて社会に巣立ってよう、さまざまな支援を続けていく所存ですので、どうかご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



学生活動支援センタースタッフ

学生スタッフ制度

「学生スタッフ」制度は、学内のさまざまな公的活動（入学式、オープンキャンパス、留学生チューターなど）に学生をスタッフとして雇用し、奨励費を支給することで、大学の構成員としての自覚や責任を持ってもらうだけでなく、経済的支援を行う事も目的としています。また、多世代の人と関わることで人間関係力を向上させることも目指しています。

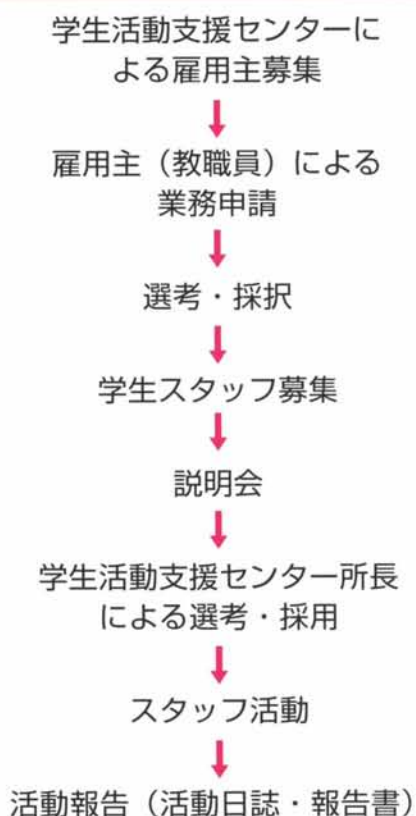
平成21年度は、延べ320人の学生が計3000時間の活動に従事しました。



オープンキャンパス運営補助
(左：受付の様子、右：キャンパスツアー誘導係)

学生スタッフ

業務採択～活動終了までの流れ



平成21年度 学生スタッフ制度 採択業務一覧

- 平成21年度入学式運営補助
- 新入生オリエンテーションのための資料準備
- 交換留学生の学生チューター
- 日本語チューター及び生活支援者（韓国・中国・アメリカ・スペイン・フィンランド）
- 郷土文学資料のデータ化、公開、そのメンテナンス
- ミニオープンキャンパス運営補助（於：水無月祭）
- オープンキャンパス運営補助（7月19日(日)）（入学企画室、各学科）
- 第1回～第3回学内合同就職ガイダンス、学内合同企業説明会
- 夏季高校生講座（社会福祉コース）ティーチングアシスタント
- 図書館司書業務補助
- 教員免許状更新講習会運営補助
- 山口県看護学研究会 第8回研究大会運営スタッフ
- 「医学」（基礎科目）の授業に係わる支援
- 山口県立大学GP合同フォーラム運営補助
- マルチリンガル・スピーチコンテスト運営補助
- 放置自転車の判別のための全自転車への札付け
- シャッター倉庫整理業務
- 大学広報用のビデオ撮影補助
- 大学広報用映像素材作成
- 「県立大学フェスタ2009」開催準備作業補助
- 学生による駐輪・駐車マナーアップ活動
- 鷲流狂言秋の特別公演補助
- 受験生おもてなし（前期試験、後期試験）
- 平成21年度卒業式運営補助



ミニオープンキャンパス運営補助（於：水無月祭）



山口県立大学GP合同フォーラム運営補助

平成21年度の学生スタッフ活動の様子を紹介します

入学式運営補助



昨年度から入学式、卒業式の会場設営や案内係として、運営に携わっています。前日は会場周辺のごみ拾いや受付などの会場設営を行いました。当日、学生スタッフはおそろいの赤いジャンパーを着用し、会場案内や席への誘導、式典後の写真撮影補助、本館キャンパスへの誘導なども行いました。

オープンキャンパス運営補助



6月の水無月祭と同時開催されたミニオープンキャンパスや7月のオープンキャンパスの運営補助に携わりました。学生スタッフによる、大学生活や入試についての相談コーナーは、学生自身の経験に基づくアドバイスがとても身近に感じられると人気でした。また、各学生スタッフが考えたルートでの学内見学「キャンパスツアー」も好評でした。

シャッター倉庫整理業務



キャンパスの倉庫整理を行いました。大学祭などのイベントで使用する TENT を、看護キャンパスの倉庫へ移動させました。TENT を実際に組み立て、大、中、小の組み合わせごとに番号を付けてまとめました。暑い時期の作業だったので、汗を流しながらの大変な作業でしたが、協力して手際よく行いました。

受験生おもてなし（前期・後期入学試験）



試験当日、大学の最寄り駅である JR 宮野駅にて、受験生の荷物預かりや保護者へのお茶の接待などをしました。学生スタッフは「受験生を応援したい!」という気持ちから応募し、受験生や保護者からの大学生活に関する質問などに答えて、不安を軽減して少しでもリラックス出来るように努めました。

学生の感想

国際文化学科 4年男子

(マルチリンガル・スピーチコンテスト運営補助)

比較的準備に時間があったので、落ち着いて作業が出来た。スチール並びにビデオ撮影も別段の問題なく、無事に作業を終えることが出来た。改善点として、マイクと照明に少なくとも2名は必要であると感じた。

編集は、以前大学紹介ビデオの編集スタッフを経験したこともあり、スムーズに作業出来た。しかし一方でカメラのスペックから十分な内容のビデオには至らなかった。学部を越えて、そういった物品はもとより、ノウハウを密に連携出来る環境づくりが必要であると感じた。

社会福祉学科 2年女子

(シャッター倉庫整理業務)

シャッター倉庫内の TENT を全て講堂前へ運び、一度組み立て、全ての部品が合っているか、TENT との大きさが合うか、破損しているところがないかを確認し、全てが OK なら骨組みに新しいテープを付けていった。テープは大中小の TENT ごとに色を分けて貼り、それぞれの TENT に番号を書いて分かりやすくした。TENT を組み立ててみると、中には骨組と TENT が合わないものがあり、廃棄するものとそうでないものを分別していった。1日目は全て終わらなかったが、回を重ねるごとにだんだんと要領がつかめていった。

2日目は、前日と同じく暑かったが、協力して作業したので気分が良かった。もし次に実施する機会があったら、午前中から始めた方が良くと思う。

国際文化学科 3年女子

(鷲流狂言秋の特別公演補助)

今回の学生スタッフは2度目だったので前回よりもスムーズに作業出来たと思います。地域の方々の参加も多く、挨拶には特に気がつけました。普段はあまり関わりのない先生方や学生とも一緒に仕事が出来、楽しかったです。仕事の内容としては、冊子のまとめや受付、設営などをしました。

普段は目にする事のない裏方の仕事はとても重要な役割をもち、やりがいのある仕事だと、改めて実感しました。これから就職活動などもあるので、学生スタッフの経験を発揮出来るように頑張りたいです!

文化創造学科 2年女子

(山口県立大学 GP 合同フォーラム運営補助)

私の主な仕事内容は、お客様の誘導、イベント終了後の後片付けでした。誘導は、会場の席を前から詰めて座ってもらうということでしたが、どのタイミングで声をかければ良いのが迷いました。あまりしつこく誘導していると不快に思われる方もいるし、かえって邪魔になっているときもありました。また、時間を聞かれてもとっさに答えることが出来なかったのは、私の準備不足でした。いかに場の流れを読み、臨機応変な対応をしていくかということ、指示を待つのではなく、自ら積極的に行動を起こすことが重要が分かりました。学生スタッフは想像以上に大変で、至らない点も多々ありましたが、知らない人たちと一緒に活動するという点でも良い社会勉強になりました。この経験を今後の自分の生活に活かせるよう、心がけていきたいです。

[活動日誌から抜粋]

YPUドリームアドベンチャープロジェクト2009

平成18年度から始まった取組も4年目を迎えました。毎年、学科・学年を越えたさまざまなプロジェクトにより、学生たちの新しい発想が大学を活気づけています。平成21年度は、6月の選考会を経て6件のプロジェクトが採択され、7月から1月まで活動を行いました。

* YPUドリームアドベンチャープロジェクトとは、大学生活をさらに楽しく豊かにするために、学生（個人やグループ）が自主的に企画・運営する独創的で魅力的なプロジェクトに対して、大学が費用を補助することで夢の実現を支援する事業です。
(YPU: Yamaguchi Prefectural University (山口県立大学)の頭文字をとったもの)



YPUドリームアドベンチャープロジェクト2009 採択プロジェクト

プロジェクト名	内 容
YPU TFT PROJECT ～ToもにFuれあい Tsuなごろう～	「TABLE FOR TWO※」という活動を通して、社会貢献するとともに、県立大学の中の“つながり”を深め、その過程を踏まえて県立大学から地域社会へ、そして国際社会へと“つながり”を広げていく。県立大学の規模の小ささや、学部の専門性などの個性を生かし、県立大学にしか出来ない形の活動を確立させる。
ぶちええじゃんブログ型 山口マップ韓国語版	山口県の魅力を紹介する「ぶちええじゃんブログ型山口マップ 韓国語版」を作成することによって、山口県への韓国人観光客を増やすことをねらいとする。 今回は韓国語に限るが、他の言語でも作成出来るということのさきがけになると考えている。
La ferme de ceries ～県大ばたけ～	現在使用していない県立大学の敷地にサツマイモの苗などを植えて、大学の資源を有効活用し、大学の活性化を図る。また、イベントなどの際にそこで収穫したものを提供するなどして、食物の大切さや食のありがたみを学生たちに感じてもらうことを目的としている。
ピアサポーターによる 「県大ライフサポート マップ」制作!!	ピアサポート活動は、県立大学に“支えあいの風土”を根付かせることを最終目標としている。 このプロジェクトでは、「県大ライフサポートマップ」を作成することで、1年生に大学生活に必要な情報を提供し、大学生活に適應できるようサポートする。「県大ライフサポートマップ」は県立大学近隣の地図を中心とした内容で作成し、県立大学ライフの魅力を掲載するとともに、相談機関やピアサポート活動の紹介も併記する。
“すきっちゃんズキチ” プロジェクト	長門ズキチは山口県の特産カンキツで、県内各地に出荷、販売されているが、知名度が低く、一般には普及していない。そこで、一般の人々に受け入れられるような長門ズキチの包装・販売方法を検討するだけでなく、長門ズキチを利用した料理やお菓子などを考案し、長門ズキチの知名度アップを図る。購買意欲をかきたてるパッケージなどの市場調査やレシピを考案・配布するなどして得られた成果を、商工会議所やJAなど関係機関に提言する。 また、市内の菓子店などで考案したお菓子を試験製作してもらい、大学祭で販売する。
県大生クリエイターの実績 づくりをしよう!	大学内や県内で精力的に自分の作品を発表している県大生もいるが、大部分の学生が資金面や人数不足が原因で、発表する段階にまで達していないのが現状である。 そこで、より多くの人に作品を知ってもらいたいと考えている県立大学の学生を集め、山口の学生の作品として国内外に向けてアピールする。また、数多くのメディアに注目されているイベントに参加することで、他のクリエイターの方や企業の方と知り合うチャンスをつくることにより、今後の就職活動につながると期待出来る。



※TABLE FOR TWO…私たちが食事をする際、いくらか上乗せした代金を支払うことによって、貧困に苦しむ発展途上国の子供たちにも、一食分の食事を届けることが出来るシステム。

YPUドリームアドベンチャープロジェクト2009の取組を紹介します



La ferme de ceries～県大ばたけ～

6月下旬から7月上旬に、大学の土地を利用してサツマイモの苗を植えました。夏休みは経費節約&環境にも優しいペットボトル製のジョウロで水を交代であげて育てました。

夏休み明けにオクラとサツマイモの収穫を行いました。サツマイモは夏の水害のため収穫量は手のひらサイズのサツマイモがわずかでしたが、オクラは大きいのが20本ほど収穫できました。

9月下旬から10月上旬にかけては、大学に栗の実がなっていたので収穫をしました。大きな栗が40個ほどとれました。華月祭に向けての下準備として皮をむき、砂糖をまぶして冷凍保存をしました。11月の初めには、6月に漬けておいた梅エキスをお湯または水で薄めたジュースと、冷凍保存しておいた栗を使って栗ご飯を作り、華月祭で提供しました。食数限定での販売でしたが、たくさんの人に県大でとれた作物の味覚を味わってもらいました。栗ご飯を食べた人の中には「県大で梅や栗がとれることなど知らなかった」という人が多かったり、「美味しい」と感想を貰ったり好評でした。

【※紹介文は報告書から一部抜粋】



県大生クリエイターの実績づくりをしよう！

選考会終了後、山口市内でグループ展を開くことにしました。このグループ展では、10月に山口市で開催される『アートふる山口』のイベントの一部として参加することにしました。展示する作品に統一感を持たせるために『music』というテーマを設定し、作品展のタイトルも『music展』に決定しました。

(中略)10月3日(土)～4日(日)、『music展』を開催いたしました。絵画作品を中心にドレスや立体作品など、15点の作品を展示しました。小学生のお子さんからご年配の方まで、幅広い年代の方々が『music展』に足を運んでくださいました。

11月7日(土)～8日(日)、山口県立大学華月祭で『music展』の活動報告を兼ねたグループ展を開催いたしました。『music展』での反省を踏まえ、アンケートの渡し方や作品コメントに工夫して展示をしました。結果、以前より2倍近くのアンケートを回収することができ、「(作品の背景が)想像でき、入りやすかった」などといった感想をいただくことができました。

【※紹介文は中間報告(学生活動支援センターホームページ)から一部抜粋】

成果報告会

1月21日(木)に「YPUドリームアドベンチャープロジェクト2009」成果報告会を開催し、全6プロジェクトが活動の集大成を発表しました。

各グループは学生ならではの視点からプロジェクトを展開し、報告からは、試行錯誤を繰り返しながらも、着実に活動を進めてきたことが伝わってきました。参加した学生たちは、それぞれの目標に向かって自らが企画をし、それを達成する為には、たくさんの人との関わり合いがあること、その関わりをもって、初めて活動が形作られていくことを学んだようでした。また、この活動を通して味わった達成感や経験は、学生たちの自信にも繋がったようでした。

選考委員からは、「活動を通して社会を見直すことで、大学や地域の活性化にも繋がる。」「ドリームアドベンチャープロジェクトには、机の上だけでは出来ない学びがある。この活動を絶やさないように。」とのお言葉をいただきました。

最後には「県大ばたけ」が、大学でとれた梅で作った梅ジュースを出席者にふるまい、報告会を終了しました。

今年度のドリームアドベンチャープロジェクトでの各プロジェクトの取組は終了しましたが、今後も活動を継続するグループもあり、活躍が楽しみです。



プロジェクトに参加した学生の感想 ～プロジェクトを通して学んだこと、困ったことなど～

- 外部と一緒に何かを行うことの大変さと楽しみ。周りを巻き込んでいく時に必要なスキル。(広報の重要さなど)
- 人に思いを伝えることの難しさを感じた。
- 意見がまとまらないことがあった。
- 山口の人の温かさや気配りと共に、農作の難しさ、また、計画の実行など、思っていたことがなかなか進まず、企画の大変さを学んだ。
- 地域の方に作品を見てもらえる機会が出来、とても勉強になった。
- 新入生のためという名目だったが、調べていくうちに何年が生活している私たちが在学生にとっても新たな発見があった。
- 指導教員からは、学生の視点とは違う着目点でアドバイスをいただくことが出来た。
- イベントに行く際、物理的、金銭的に困難だった。
- プロジェクトを学生だけの取組や成果にするのではなく、地域やプロジェクト外の人々とも一緒に取り組めるようにすると、さらに良い内容になると感じた。

「YPUドリームアドベンチャープロジェクト2009報告書」は学生活動支援センターで閲覧出来ます。

県立大学フェスタ2009

7月19日(日)、本学学生のさまざまな活動を紹介する「県立大学フェスタ2009」を開催しました。

県立大学フェスタとは、ステージ発表、展示・体験コーナーなどのプログラムを通して、学生の自主活動やサークル活動を間近で見られる県立大学のイベントで、今年で2回目を迎えました。今年はオープンキャンパスと同時開催となり、高校生・保護者の方を中心とした、およそ700名の方が訪れました。

厚生棟前広場では音楽系サークルなどのステージ発表が行われました。天気が心配されましたが、開演時間に合わせるように太陽が顔を出し、少し暑いくらいの日差しの中、吹奏楽団BLAZEの演奏でステージが始まりました。手話サークルによる手話歌では、一緒に手話に挑戦する高校生の姿も見られました。最後は奄美連合萩組による元気いっぱいのよさこいが観る人を圧倒しました。ステージ前は、学生食堂に昼食と休憩に訪れた人を巻き込んで、大変賑わいました。

また、体育館ではパネル展示などで、学生によるさまざまな自主活動の紹介が行われました。身近なエコについて考えるワークショップやプチ韓国語講座など親しみやすい内容の活動紹介も多く、高校生たちが見入っていました。

その他の会場では茶道部によるお点前体験、タンデムの試乗などの体験コーナーが人気を集め、フェスタを通して大学生と訪れた人の距離も縮まったようです。エコチャリのテント前では、大学生と高校生がすっかり打ち解け、明るい笑い声が絶えませんでした。ピアサポートによる相談コーナーでは、訪れた高校生が大学生活についてさまざまな質問をする姿が見られました。

「県立大学フェスタ2009」を通じて、普段見ることが出来ない学生の自主活動を、より多くの人に知っていただくことが出来ました。



BLAZEの演奏で、一気にフェスタのムードに。会場を盛り上げました。



厚生棟前は、丁度昼食に訪れた人も巻き込んで、大賑わいでした。



厚生棟和室では、茶道部のお点前体験が行われました。



エコアクション21学生委員会のブースでは、水の飲み比べなどのエコワークショップを行いました。



時々強い日差しが降り注ぎ、暑いくらいでしたが、天気に恵まれ無事開催出来ました。



災害ボランティアは活動紹介と蒸しパンの焼き出しをして、来場者に試食してもらいました。



手話サークルは流れるような手の動きで言葉や想いを届けていました。



TFTは先進国と発展途上国の「食」の問題を考える取組の紹介をしました。



ヴァーチャル韓国生活と題して、韓国と日本の文化の違いを紹介しました。



タンデムは高校生を乗せて、4号館前広場を周遊していました。



ピアサポートによる相談コーナーも高校生に人気でした。



お弁当の日のブースでは、活動の紹介とともに、学生による手作りのお弁当の写真も展示しました。

自治会・サークル活動支援

今年度の自治会・サークル連合会は、昨年度からの活動の継続とチャレンジの一年でした。5月と11月に学生総会を開催し、自治会会則の改定などを行った他、サークル連合会でも規則の改定をし、実状に合った運営を目指しました。

また大学祭では、昨年引き続き実行委員を務める学生が増えたことで、大学祭実行委員会として、ひとつの組織を形成し始めました。6月と11月の大学祭では延べ64人の学生が実行委員として活動し、大学祭を盛り上げました。

さらに今年度は新たな取組として、学科を越えた学生同士の繋がりを深める「自治会イベント」を3回企画し、学科マッチなどに多くの学生が参加しました。各イベント毎に学生のボランティアを募り実行委員会を立ち上げたことで、役員以外の学生も自治会の運営に携わるようになり、活動の輪をさらに広げることが出来ました。

また、サークルに呼びかけをし、夏季休業中にサークル棟の清掃を行うなど、精力的に活動した一年でもありました。これらの取組は今後も継続していきます。

来年度は今年度成果を得ることが出来た活動の継続と学生同士の繋がりをさらに深めることを目標とし、自治会の広報活動などにも力を注いでいきます。



インターンシップ制度

正課インターンシップ以外にも、課外インターンシップ、学内インターンシップを奨励しています。学外関連団体とセンターが連携することにより、多くの学生に対して実践的なトレーニングを行える場を提供することが目的です。平成21年度は、夏季休業中に18名の学生がホテルや地方自治体などでインターンシップをしました。

学内での報告会を10月に開催し、どの発表者もインターンシップで得たものや今後の課題について、熱心に発表しました。今回の報告会では、一般参加の学生数がこれまでに多く多かったことも特徴的でした。



学内インターンシップ
(高校生夏季公開講座)

- 平成21年度のインターンシップ生**
- ・課外インターンシップ生 14名
(学生活動支援センター経由でのインターンシップ)
 - ・学内インターンシップ生 4名
(本学附属地域共生センターでの短期インターンシップ)



インターンシップ報告会の様子 (10月)

さまざまな学生生活活動の支援

AED講習会

5月15日（金）、日本赤十字社山口県支部から2名のインストラクターをお招きして、AED講習会を開催しました。これは、現在学内だけではなくさまざまな場所に設置されているAEDを、いざというときに使用出来るよう、正しい知識を身につけることを目的とし開催しました。

参加者は11名で、前半は、冊子を見ながら説明を受けました。まず、観察と意識の確認から始めます。

「倒れている人は、頭と首に衝撃を受けているので、頭と首を守って、仰向けにする」や「かかとを動かさないようにしながら、ひねられた下半身をまっすぐにする」など、倒れている人を見たら、AEDを使用する前にどのように対応するのか説明を受けた後、グループに分かれて実技を行いました。

後半は、実際に人形を用いて、AEDを実践しました。救急車が現場に到着するまでは、人工呼吸と心臓マッサージを続けます。心臓マッサージは両手で体重をかけながら行いますが、なかなか難しいようでした。

AEDが到着したら音声と図に従いながら所定の位置に電極パッドを貼り、救助者は傷病者から離れます。AEDが「ショックは必要ない」とアナウンスしても、人間が確認するのが一番正確だそうです。呼吸を確認し、息をしていなかったら、人工呼吸と心臓マッサージを続けます。

この日行ったのは「標準型実技」でした。参加者は、休み時間にもインストラクターに質問するなど、積極的な姿勢で講習会に臨んでいました。



護身術体験型セミナー

6月24日（水）、山口県警察本部、山口警察署のご指導のもと護身術体験型セミナーを開催し、25名の学生が参加しました。はじめにレクチャーとして、今年の犯罪発生率は昨年と同様であることや、防犯については、学内であっても自転車の施錠は必ずすること、帰宅の際に鍵を開けるときは、必ず後ろを確認することなど、すぐに実践出来ることからお話いただきました。

実践を伴う護身術では、「護身術は、あくまで逃げるきっかけをつくるもので、相手を倒す術ではない」こと、「相手が向かってきたら、直線や円の動きで力を逃がす」ことなどを、現役の警察官の皆さんが熱心にご指導くださいました。参加者からは「初心者でも簡単に出来た。」「また開講して欲しい。」などの意見が寄せられました。



参加した学生の感想

- ・警察の方からの指導が丁寧でよかった。
- ・逃げられることがわかった。
- ・犯罪情勢などを知ることが出来た（講話がよかった）。
- ・会場が狭い、暑い、わかりにくい。
- ・説明がわかりやすかった。
- ・時間ももっと欲しかった。
- ・初心者でも簡単に出来た。
- ・警察の人と組んでみたかった。
- ・体験出来たのがよかった。
- ・また開講して欲しい。
- ・これから役に立ちそう。
- ・TV取材やカメラは緊張した。
- ・とても楽しかった。
- ・少し難しかった。
- ・また参加したい。

ピアサポート活動

4月に入学した新入生向けに3日間ピアサポートを開催しました。学内の一室に3カ所のブースを設け、大学での新生活に対する相談や、アドバイスを行いました。ピアサポーターもこの日のために、相談技術の勉強をするなど、準備を重ねました。新入生からは、新生活への不安や気を付けること、お店の場所を知りたいなどの相談が多く寄せられました。

後日、履修登録の説明会でも教務委員の先生の手伝いとして活動を行いました。先輩として、授業の内容や面白い授業を知りたいなどの質問に、学生の日線から相談にのりました。新入生にも好評で、新入生支援の大切さを改めて認識させられるものとなりました。

9月には学内で、2日間のピアサポーター養成夏季研修を行いました。1日目は自己紹介ゲームや対人距離ワークを皮切りに、カウンセラーの先生による相談のデモンストレーションが行われました。その後の質疑応答では、相談を受けたときに気を付けたい点や、沈黙についてなど、さまざまな質問が飛び出しました。

2日目は、メンバー同士による相談のロールプレイングで、2人1組となり、相談役とカウンセラー役に分かれてそれぞれの役割を演じました。その後全員でディスカッションを行った後、効果的な質問と沈黙について学びました。ここでも、2人1組になり、1人がもう1人に20分間質問をし続けることで、上手く質問する技術と、それが途切れたとき、それをどうとらえるかといったことを学びました。

今回の研修はメンバーがこれまでの経験や考えてきたことを発揮し、より充実したものとなりました。

〔報告者 ピアサポーター M〕

*ピアサポーターとは、新入生がキャンパスライフになじんでいくまでの期間、学生生活上の諸々の相談にのる、上級生の学生ボランティアスタッフのことです。平成20年4月からピアサポート活動を始め、ピアサポーターの養成に努めています。



留学生支援

一昨年度から留学生と日本人学生の交流の場を提供するために「Y & I 交流会」を開催しています。

今年度は、5月27日（水）に体育館にて留学生と日本人学生がバドミントンで交流をしました。

11月1日（日）には「下関・門司港への日帰りバスツアー」を行い、留学生15名と日本人学生17名が参加しました。小雨の降る中、大学のバスに乗り込み、下関の「海峡ゆめタワー」へと向かいました。雨と霧で景色はかすんでいましたが、記念撮影などを楽しんでいました。しものせき水族館「海響館」では、イルカやアシカのショーに大興奮！その後、多くの人で賑わう「唐戸市場」・「カモンワーフ」で海の幸を堪能しました。昼食後、門司港レトロ地区に向けて、関門連絡船に乗り5分で対岸へと渡りました。波が高く、船は揺れましたが、みんな元気な様子で門司港レトロ散策を楽しみました。帰りにバスで関門橋を渡ったときには、空が明るく晴れており、関門海峡周辺をぐるっと見渡せ、みんな歓声をあげていました。心配された天気も、大降りになることはなく、少し肌寒くはありましたが、楽しい1日となったようです。

1月13日（水）には「やまぐちの料理教室（地産地消料理教室）」を開催し、郷土料理を通じて交流しました。上関町から管理栄養士の穴井恭子氏と食生活改善推進員（食推）の村田喜代子氏を講師に迎え、上関町の歴史や風習を教わりながら、伝承料理の“押しずし”や“けんてん”を作りました。最初は言葉の壁を感じていた参加者たちも、調理をはじめると自然と協力し合い、押しずしを型からはずすときは、拍手が起こるほど和気あいあいと楽しんでいました。



* Y & I には
Yamaguchi & International、
You & I、友&愛 など、いろ
いろな意味が込められています。

ボランティア窓口の新設

6月から、地域や依頼団体と学生・大学の架け橋として、学生活動支援センター内にボランティア窓口を新設し、専任のコーディネーター1名を配置しました。本窓口は、本学学生が積極的に地域活動や社会活動などに参画することを通して、自主性・社会性などの習得を支援することを目指しています。

ボランティア情報は、掲示板・ホームページへの掲載の他、登録者へのメールマガジンなどで提供しています。

また、後期から「ボランティア活動記録簿」を各自が作成し記録を残すことで、活動者自身のふりかえりや自己管理に役立てるとともに、活動後のフォローにも活用しています。



湯田地域交流センターで開催された「第22回西京老人だいがく」での食生活に関するミニレクチャーと、その後の懇談会



きらら浜で開催された「ボーイスカウト2009きらら浜ミニジャンボリー」で通訳や運営に携わった際の様子

ボランティア講習会

第1回 社会に出てきつと役に立つ 学生時代にしかできない ボランティア活動 ～思いを形に、カタチを活動につなげましょう!!～

12月16日（水）、講師に山本貴広氏（山口市社会福祉協議会 阿知須支部 事務局長、青年海外協力隊OB）をお招きして、桜翔館学習室で開催しました。

前半は、ご自身の学生時代の体験、山口市の「協働のまちづくり条例」についてのお話をいただき、それぞれが学生という立場の他に、地域社会の一員であり、市民であることを意識するきっかけとなりました。

後半は、青年海外協力隊として赴任したネパールでの活動を中心に、今では大変貴重なスライドを交えながらお話くださり、参加した学生にとって、日頃学んでいる学問分野とは異なった視点や、海外での活動を知る良い機会となったようです。



*私が一番印象に残ったこと（感じたこと、思ったこと、驚いたこと）は？という問いに対する学生の回答（一部抜粋）

- ・何をやるにも、人と人を繋げるきっかけが重要だと思った。
- ・知識はなくても知恵をしぼることが出来る。
- ・自分の専門分野だけでなく、自分の住む地域の一員として、地域に関してもっと知り行動していかなければならないと感じた。



第2回 コミュニケーションスキルUPゼミ

1月15日（金）、講師に荒瀬澄枝氏（山口県協力隊を育てる会副会長、NGOネットワーク山口副会長）をお招きして、地域交流スペースYuccaで開催しました。アイスブレイクでは、初対面の円滑なコミュニケーションメソッドの実践として、お互いの好きなこと、こだわりを詳しく書いた紙を見せ合いながら話をする偏愛マップによって、初対面でもすぐに意気投合し、会場内は一気に笑顔であふれました。

その後、海外からのボランティア受け入れを検討する事例を取り上げ、グループに分かれて英語教師、社会福祉協議会職員などさまざまな役割を演じながら、ディスカッションを行いました。スタディーツアーや交換留学など、海外で生活した体験がある学生、今まさに海外から来て日本で暮らしている学生もおり、そういった体験があるからこそその意見も出ていました。

今回は、海外からの受け入れについての事例を中心としていましたが、身近なところでも気がつかないうちに、他者に受け入れてもらうことのありがたさ、相手がどういう配慮をしているのかなど、相手に対する気付きに繋がる内容でした。



地域からの各種要請の受託と地域への学生派遣事業

地域災害ボランティア

7月21日（火）、山口県を集中豪雨が襲い、山口市、防府市内の各地で目を覆いたくなるような被害がありました。本学がある宮野地区も断水となり、学生たちの生活もさまざまな不自由が生じ始めました。7月23日（木）午前、日頃お世話になっている地域の皆さんのために出来ることから始めようと、約30名の学生が桜翔館に集まりました。

まず、“断水時の生活のノウハウ”や“銭湯情報”などの学内での情報提供を行い、夕刻から宮野地区の給水所（宮野小学校、県営住宅）で、給水、運搬などの補助、交通案内などを開始しました。

学生たちの活動の輪はどんどん広がり、あっという間に約100名の学生がボランティア登録をし、全戸の水道復旧が完了した29日（水）まで、授業の合間を利用して活動しました。

その後、山口市では災害ボランティアセンターの運営、防府市では教職員を含め、延べ約60名が災害ボランティアセンターの運営、復旧活動、また、岩手県立大学の学生ボランティアセンターから贈られた南部鉄の風鈴の音色に勇気づけられながら義援金募金活動を行いました。活動に参加した学生たちは、自分も地域の一員ということや学生同士の繋がりを強く感じるなど、大きな何かを得たようでした。



小学生対象 なつやすみの宿題ボランティア

8月19日（水）～21日（金）の3日間、桜翔館で「小学生のための なつやすみの宿題楽しく学ぼう会」を開催し、大学生ボランティア13名が小学生のドリルや読書感想文などの宿題のお手伝いをしました。

勉強の合間には、頭のリフレッシュとお楽しみを兼ねたレクリエーションとして、英語でのフルーツバスケットやキャンパス探検などをしました。

3日間で延べ61名の小学生が参加し、最後に1人ずつに修了証と記念写真が渡され、宿題勉強会を無事に終了することが出来ました。小学生の皆さんにとっては、宿題を終えた達成感はもちろん、普段見られない大学の中をほんの少しでものぞけて、新鮮な気持ちを味わうことが出来たようでした。そして、ボランティアの学生たちにとっても、小学生との触れ合いを通して、充実した3日間となりました。



山口県立大学GP合同フォーラム開催



11月14日(土)講堂にて、本学で進行中の6つのGPの総集編として「山口県立大学GP合同フォーラム」を開催しました。

第1部では、京都大学大学院教授、山極寿一氏をお招きして「『環境・共生・未来』～ゴリラが教えてくれたこと～」をテーマに基調講演をしていただきました。第2部では、各GPに分かれ、分科会を行いました。

また、会場設営、当日の受付・誘導などに学生スタッフも活躍しました。職員の指示でてきばきと活動する姿が印象的でした。

GP合同フォーラムは一般の方約300名、学生約60名、教職員約100名が来場し、全体では約450名を超える参加者となり、大変盛況な会となりました。

分科会の後は交流会を開催し、フォーラムとは違った和やかな雰囲気の中で、他大学や地域の方との積極的な意見交換が行われました。



3GP合同分科会

「大学を生かした地域づくり、地域に生かされる大学教育」

学生支援GP、現代GP（地域）、特色GPで合同分科会を開催しました。

第1部のプレゼンテーションでは、岩手県立大学 山本克彦准教授から特色GP、長崎大学 財修一准教授から学生支援GP、人見英里学生活動支援センター所長から学生支援GP、本学各GP代表者から取組紹介、地域の方や学生から意見をいただきました。

第2部のパネルディスカッションでは、「これからどうする！？ 県大・地域～広場のような大学を目指して～」をテーマに、本学と地域との関わり方について考え、会場の学生や地域の方を交え、活発に意見交換や質疑応答をしました。



3GP合同分科会の様子



本学学生支援GPの取組紹介。



長崎大学 財修一准教授。



岩手県立大学 山本克彦准教授。



第2部パネルディスカッション。



地域の方も交え、活発な意見交換が行われました。



山極寿一氏にもご参加いただきました。



分科会後の交流会の様子。



最後は「大内のお殿様」を踊り、会場がひとつに。

広報活動

学生活動支援センターホームページ

学生活動支援センターではホームページを開設し、学内掲示とあわせて、学生スタッフ募集やイベントの開催予告、活動状況の報告などを随時行っています。

今年度は新たにボランティアのページを開設したことで、学生向けのボランティア情報に加え、地域の団体や外部団体向けにもボランティア要請についてのご案内などを掲載しています。

自治会やそれぞれのサークルの紹介ページでは、年度末発行のサークル紹介誌「有隣」も閲覧出来るなど、学生の活動を広く広報すると同時に、サークル会議の資料などの掲載も行っています。

その他、YPUドリームアドベンチャープロジェクトの中間報告など各種学生活動を紹介しています。



新着情報

支援センター

お知らせ

- 12月17日 ▶ **【新着】** YPU TFT PROJECT 11月学生でTFTメニューを限定提供中(コラボもあるよ)
- 12月1日 ▶ **【新着】** 宇長ランデブー(12月)を開催します
- 11月26日 ▶ **【新着】** 陸上競技部 最新ニュース大
- 11月20日 ▶ **【新着】** YPUドリームアドベンチャープロジェクト 中間報告を掲載中!
- 10月22日 ▶ **【新着】** 山口県立大学9月フォーラム、分科会開催のお知らせ

ニュースレター

- 12月4日 ▶ 「バカかつの本」Vol.9ができました

イベント案内

イベント情報

- 11月27日 ▶ **【新着】** 極の教育成功プロジェクト
- 11月27日 ▶ **【新着】** YPUドリームアドベンチャープロジェクト



広報誌の発行

昨年度から、学期ごとに広報誌「かえるのうた」を発行し、学内・地域に配布しています。学生スタッフの活動や、県立大学フェスタ2009、ボランティア活動などについて取り上げました。



発 行 公立大学法人 山口県立大学
学生活動支援センター

発行日 2010年 3月

電 話 083-928-3478 FAX 083-928-5769

所在地 山口県山口市桜島3-2-1

U R L <http://blog.ypu.jp/gakukatsu/>